

平成31年度 事務事業評価シート

[平成30年度事後評価]

整理番号	2	部 局 名	政策調整部	所 属 名	企画調整課	所 属 長	田中 鉄也
事務事業名	02376 大学連携関連事業	記 入 者	竹中 真哉				

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	
	方針	01	子どもから高齢者までが輝いて、魅力あふれるまちを創ります	関連する 個別計画	
	政策	04	つながりを大切に、ともに支えあうまちにします		
	施策	04	大学連携の推進		
	視点	01	大学との連携によるまちづくりの推進		
重事	01	大学との協力関係の拡充			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	政策	評価対象事業	大学連携関連事業費	
事業の概要	大学の豊かな知的資源、人的資源を十分に活かしたまちづくりを推進するため、これまで協力協定を締結してきた7大学との連携や相互協力を更に進めていくとともに、県内の大学と自治体が参加する環びわ湖大学・地域コンソーシアムの連携事業に参画し、協力関係を拡充する。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	大学の豊かな知的資源、人的資源を十分に活かしたまちづくりを推進するため、
対象 (何又は誰を)	本市と協力協定を締結する7大学や、環びわ湖大学・地域コンソーシアムにおいて
手段 (どのようなやり方で)	連携や相互協力を進めていくことにより、
成果 (どのような状態にするのか)	多様化、複雑化する地域の課題に迅速かつ柔軟に対応のできる、魅力と活気あふれるまちづくりを目指す。

＜3. 経費＞ DO

		平成28年度 決算額(千円)	平成29年度 決算額(千円)	平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 予算額(千円)	令和2年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		512	1,586	2,116	1,187	1,187	
人件費 B		810	3,280	3,690	2,460	2,460	
事業費合計 A+B		1,322	4,866	5,806	3,647	3,647	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	1,322	4,866	5,806	3,647	3,647	
職員数(人)		0.10	0.40	0.45	0.30	0.30	
職員数の内訳	正規	0.10	0.40	0.45	0.30	0.30	
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	
活動指標	1	大学との会議回数	回	目標	15	15	15	16	16	
				実績	46	24	61	-	-	
	環びわ湖大学・地域コンソーシアムおよび協定大学等の大学連携に関する会議出席回数									
	2				目標					
				実績						
成果指標	1	大学連携相互協力事業数	事業	目標	240	245	245	245	245	
				実績	262	266	304	-	-	
	大学と行政との連携・相互協力事業数									
	2				目標					
				実績						

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	大学においては、大学改革等を背景に、地域と連携した大学運営が重要な課題の1つとなっており、地域では少子高齢化の進展等で地域コミュニティの希薄化が懸念され、地域での課題解決や活性化が求められている。	
これまでの見直しや改善等の経過	平成28年度からは学生交流促進事業を、平成30年度からは、大学生の視点から大津市のまちづくりについて、市と連携して、研究や提案等をまとめる学生まちづくりLabを開始した。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	大学の豊かな知的資源、人的資源を活用した、本市との連携によるまちづくりは、少子高齢化や地域コミュニティの希薄化が懸念されるなか妥当である。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	大学と連携した事業数は成果目標を上回っており、有効である。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	大学との協力協定の締結やコンソーシアムへの参画により、大学側の協力体制も整っており、環びわ湖大学・地域コンソーシアムでは、県内自治体との大学連携に関する情報共有も行うことができ、効率的である。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	毎年、多数の所属において、様々な分野で大学との連携を図っている。
---------	--	----------------------------------

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	学生交流促進事業「Meet Up おおつ」については、事業開始後3年を迎え、学生間の交流が促進され、学生同士で情報交換等を行う環境も整ったことから、平成30年度末を持って終了する。一方、平成30年度から大学生が地域住民とともに地域課題解決に向けた活動を行う「学生まちづくりLAB」を開始した。
部局長コメント	大学との連携は、地域の知的資源として、また、若者の活力を生かしてまちを活性化するという観点からも重要であり、今後も、学生交流の活性化等の事業について効果等を確認しながら継続的に推進していく。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標達成率	指標1	109.16 %	108.57 %	124.08 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	+1.52 %	+14.28 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	28 千円	202 千円	95 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	5 千円	18 千円	19 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	+262.54 %	+4.40 %